

新幹線プレス

2014年1月30日 No.149

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

絶叫点呼の中止を求めて申し入れ！

1月24日の仕業検査車両所の始業点呼から指差確認喚呼が実施されています。「ヒューマンエラー防止のため」「大きな声で行う」とし安全当番が○番線 断路器切ヨシ！と唱和し、声が小さいとやり直しをさせられます。組合員から「点呼が憂鬱だ」との声が上がっています。このことは管理者によるパワーハラといえます。

また、交番検査車両所では始業点呼終了時に各班毎に指差確認喚呼を実施しています。

大声を出せば「ヒューマンエラー」はなくなるのでしょうか？決してそうではないと思います。会社は異常な点呼を直ちに正すべきです。

新幹線地本は緊急申し入れを行いました。申し入れ内容は以下の通りです。

JR東海労幹地申第14号 2014年 1月30日	
東海旅客鉄道株式会社 新幹線鉄道事業本部 本部長 関 雅樹 殿	JR東海労働組合新幹線地方本部 執行委員長 成田隆浩
【東京仕業検査車両所、東京交番検査車両所における点呼】に関する申し入れ	
2014年1月24日、検修連絡H25-141号「始業点呼時の指差確認喚呼の実施について」が掲示され、同日の仕業検査班の始業点呼時から実施されている。また、東京交番検査車両所の始業点呼終了時においても各班毎に指差確認喚呼を実施している。	
実際に仕業検査班の点呼では複数の管理者による監視のもとで、大きな声での指差確認喚呼が強要され、さらには声が小さいとしてやり直しを強要している。組合員の中には点呼が憂鬱であるとの声が組合に届いている。	
この事は管理者によるパワーハラスメントである。さらに職場を管理者自ら混乱させ社員に恐怖心を植え付けるものである。このような社員に精神論だけを押しつけ、ヒューマンエラーを起こした社員に責任を押し付ける会社の姿勢は到底看過できない。	
よって以下について申し入れるので早急に協議の場を設けて誠意ある回答をすること。	
記	
1. 検修連絡H25-141号を発行した会社の意図について明らかにすること。	
2. 大声による指差確認喚呼を直ちに中止し、正常な点呼に戻すこと。	
以上	

車両所は軍隊ではない、直ちにやめろ！